

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

メッセージ 11

主の食卓と主の晩餐

聖書：I コリント 10:14-22. 11:17-34

- I. 聖書において、霊的な食べることに関する記録は、食べることによって神がご自身をわたしたちの中へと分与することを意図しているということを強く示しています——創 2:9, 16-17. 出 12:1-11. 16:14-15. 申 8:7-10. 啓 2:7, 17. 3:20, 22:14 :
- A. 食べることは、神の分与を経験し、神とミングリングされて、神の表現する道です——創 1:26. 2:9。
 - B. わたしたちは、わたしたちが食べるものになります。こういうわけで、わたしたちは神を食物として食べるなら、神と一になり、神格においてではなく、命と性質において神とさえなります——ヨハネ 6:32-33, 35, 41, 48, 50-51。
 - C. わたしたちは、わたしたちを占有し、浸透するものにしがって生きます。わたしたちはキリストを食べ、命を与える霊としての彼で浸透されるなら、キリストを生きます——ヨハネ 6:57. ピリピ 1:21 前半。
 - D. クリスマンの全生涯は祭り、すなわち、キリストをわたしたちの祝宴として享受することであるべきであることを示しています——I コリント 5:7-8. 10:16-17。
- II. 主の食卓の強調は、彼の血の交わりとからだの交わりにおいてであり、主にあずかり、交わりの中で主を相互に享受することです——I コリント 10:16-17, 21 :
- A. 主はご自身をわたしたちに与えられました。それはわたしたちが彼を食べ飲みすることによって、彼にあずかり、彼を享受するためです：
 - 1. わたしたちにご自身の体と血をささげてくださいっている方は、すべてを含む霊としてのキリストです——I コリント 15:45 後半. II コリント 3:17。
 - 2. このすばらしいキリストは、わたしたちにとってすべてであり、わたしたちの享受です。彼であるすべては、わたしたちがあずかり、享受するためです。
 - B. 「わたしたちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血の交わりではありませんか？ わたしたちがさくパン、それはキリストの体の交わりではありませんか？」——I コリント 10:16 :

1. ここの「交わり」は、信者たちがキリストの血と体とに共にあずかる交流のことを言っています。
 2. 「交わり」は、主の血と体とにあずかるわたしたちを、互いに一にするだけでなく、主とも一にさせます。わたしたちは、主の血と体との交わりの中で、自分自身を主と一体化させます。
 3. コリント人への第一の手紙第1章9節において、交わりは、神の御子の交わりです。第10章16節において、交わりは、彼の血と体との交わりであり、彼が手順を経過してわたしたちの享受となったことを示しています。
- C. 「一つパンであるからには、わたしたちは数が多くても一つからだなのです。それは、わたしたちがみなこの一つパンにあずかるからです」—— I コリント 1:17 :
1. わたしたちはみな一つからだです。なぜなら、わたしたちはみな、一つパンにあずかるからです。わたしたちが一つパンに共にあずかることは、わたしたちすべてを一とします。
 2. わたしたちがキリストにあずかることは、わたしたちすべてを彼の一つからだとします。わたしたちがみなあずかるキリストこそ、わたしたちを彼の一つからだに構成します。
- D. キリストの体と血とがある食卓は、良き地としてのキリストの実際です。わたしたちは、主の食卓に来て、すべてを含む方としての彼を享受するときはいつでも、経験において良き地の中において、その地の豊富を享受しています。
- E. わたしたちが主の食卓にあずかることは、主の唯一のからだの唯一の交わりでなければなりません。そこには実行においても、あるいは霊においても、何の分裂もあってはなりません。

Ⅲ. 主の晩餐の強調は、主を記念することにあります—— I コリント 11:24-25 :

- A. 主の食卓では、主の体と血とをわたしたちの享受として受けます。主の晩餐では、わたしたちが主を記念して、彼に享受していただくのです。
- B. 主の食卓と主の晩餐に関して、相互性の関係があります。主の食卓はわたしたちが享受するためであり、主の晩餐は主が享受するためです。
- C. 「これを行ない、わたしの記念としなさい。」24節と25節の「としなさい」という言葉は、結果を暗示します。それは絶えず主を記念して、主を満足させるということです。
- D. 主を真に記念するとは、パンを食べ、杯を飲むことです——24-25節 :
 1. パンは命のパンであり、杯は祝福の杯です——ヨハネ 6:35. I コリント 10:16。

2. パンを食べ、杯を飲むとは、贖いの主をわたしたちの分け前として、命と祝福として受けることです。これが真に主を記念することです。
- E. 「ですから、あなたがたがこのパンを食べ、その杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」——11:26 :
1. 主の晩餐を食べるとは、主の死を記念することではなく、それを告げ知らせ、陳列することです。
 2. わたしたちは、主が再来して神の王国を設立されるまで、主の贖いの死を絶えず告げ知らせることによって、主の記念に主の晩餐を食べるべきです——マタイ 26:29。
 3. わたしたちが主の最初の来臨と二度目の来臨のために、主を継続的に記念する目的で主の晩餐を継続的に食べる時、その晩餐は王国、神の行政に関連して、主を満足させることとなります。
- F. わたしたちは主の晩餐にあずかる時、食卓の上のパンがキリストの唯一の奥義的なからだを表明するのかどうかを考え、からだを識別しなければなりません。
- G. 主の晩餐を食べることは、主イエスの満足のために王国をもたらす生活を召会の中であるよう、わたしたちに思い起こさせるべきです—— I コリント 11:26. マタイ 26:29。